

背景・目的

旭川市内では移植栽培が一般的ですが、育苗に係る労力や資材代の削減が期待できる直播栽培について、当地での実施可能性を検討しました。



播種用の溝を成型した試験圃

結果

供試品種 SK9-099（株サカタのタネ）

試験作期 作期1（春まき） 4/28 播種，7/14～7/28 収穫

試験方法 4つの播種条件（播種深，播種床の形状等）

作期2（晩春まき） 5/25 播種，8/2～8/25 収穫

で栽培し，出芽や生育の状況などを調査

作期3（初夏まき） 6/23 播種，8/31～9/19 収穫

| 試験区                  | 浅播き区   | 深播き区   | 溝底播き区  | べたがけ区  |
|----------------------|--|--|--|--|
| 播種方法<br>全試験区<br>1粒播き |  |  |  |  |
| 特徴                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>天候の影響を受けやすく，昼夜の寒暖差が大きい。</li> <li>晴天が続くと，種子周辺の土が乾燥しやすい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>浅播きよりも天候の影響を受けにくいいため，乾燥しにくい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>浅播きよりも日中は涼しく，夜は暖かい。</li> <li>乾燥しにくいですが，雨水がたまりやすい。</li> <li>溝を成型する機器が必要</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>保温性に優れる。</li> <li>乾燥しにくいですが，雨水がたまりやすい。</li> <li>溝を成型する機器や，べたがけ用の資材・機器が必要</li> </ul> |
| 出芽の状況（出芽率）           | 春まき  | ×（63%）   | ×（63%）   | （78%）  |
|                      | 晩春まき   | ×（54%）   | ×（58%）   | ×（55%）   |
|                      | 初夏まき   | （79%）  | （71%）  | ×（56%）   |
|                      | 共通   | ：出芽率75%以上，：70%以上75%未満，：65%以上70%未満，×：65%未満                                      |  |  |
| 出芽の状況（出芽率）           | 溝底区及びべたがけ区は両区とも出芽が良好でしたが，より暖かいべたがけ区の方が早く出芽しました。浅播き区及び深播き区は，低温のため出芽のそろいが悪く，不出芽による欠株が多くなりました。              |  |  |  |
| 出芽の状況（出芽率）           | 出芽までの間に土壌が乾燥したため，総じて不出芽による欠株が多くなりました。晴天が続いて降雨が少ない場合は，灌水などによる乾燥対策が必要と考えられました。                             |  |  |  |
| 出芽の状況（出芽率）           | 浅播き区及び深播き区は，降雨と適時灌水により土壌が乾燥しなかったため，出芽は比較的良好でした。溝底区及びべたがけ区は，大雨によって溝底に水がたまり，不出芽が多くなりました。                   |  |  |  |

収穫結果

全作期・全試験区で出荷可能な花蕾を収穫することができました。しかしながら，ブロッコリー栽培に適さない気象及び環境条件（高温，降雨後の過湿等）のため障害が多発し，総じて低収となりました。



今後の課題

- ・ 平年並みの気象条件下における収量性などの検証
- ・ 当地に適した栽培方法（欠株の抑制，病害虫・雑草防除等）の確立
- ・ 直播栽培において生じるコスト・労力の検証（移植栽培との比較）

結果の活かし方

当地に適した直播栽培を確立するための基礎資料として活用します。